

# 年々進化を遂げる脳卒中の治療 切らない脳血管内治療が主流に

医療法人社団英明会 大西脳神経外科病院(明石市) 理事長 大西英之



脳神経外科の専門病院として2000年に開設された大西脳神経外科病院は、今年の12月で20周年を迎えます。脳腫瘍、脳梗塞や脳出血、クモ膜下出血などの脳卒中、頭部外傷や脊椎・脊髄損傷あるいはアルツハイマー病や脳血管性認知症、パーキンソン病など、目覚ましく進歩する治療や最新の設備を提供してこられた大西理事長にお話を伺いました。

——もう20年経ったんですね。おめでとうございます。

早いですね、あつという間に20年経ちました。来年の1月には記念式典を行う予定です。

今年の方向性としては「脳卒中・循環器病対策基本法」が昨年末に成立しました。国全体が脳卒中や心臓病に力を入れるということですが、脳卒中はがんとは違い、生活習慣病に基づくものです。予防やきちんとした治療をすれば、心筋梗塞も脳梗塞も治るものです。脳卒中にはt-PAができて、一刻も早く点滴を、と言われますが、実際点滴注射は効くか効かないかは、やってみたいと分からないところがあります。薬まかせで待っているのではなく、積極的に血栓を取りにいけばいいのではないかといいことで、カテーテ

ル血管内治療が進んできています。

脳卒中学会では、基準を設けて全国の病院を3段階くらいに分けて、脳卒中の急性期に対応できる病院を認定するそうです。ハードルが高く日本の実情にはすぐには合いませんが、そういった方向で進めると打ち出しています。病院もそれに合うように対応して血管内手術や脳卒中の指導に当たることができる脳外科の専門医を養成してくださいと言われてます。私のところは、現在5人の血管内手術の専門医がおり、既にMRIも4台ありますので、「包括的な脳卒中センター」という一番上のランクの基準はクリアしています。しかし現実には1病院も認定できない都道府県があります。しかしいつまでも病院格差が大ききようではないけません。脳卒中に力を入れる病院はそのくらいやらなくてはいいないということなんです。これから劇的に変化していくでしょう。血管内治療に適した装置を導入するといったことから動いていくと思います。

この2月から工事に入りますが、当院でも血管造影しながらCTの撮影ができる最新の機械を国内では初めて導入します。ドイツのシーメンス社の機械です。診断と治療が一気にできます。血管が詰まってから血流を再び流すまでの時間は短ければ短いほど予後は良いのです。

病院に来られて治療が終わるまでの時間は1時間としています。

昨年当院の手術件数は924件で、おそらく日本でもトップクラスだと思えます。血管内手術もどんどん増えています。

——病院に運ばれるまでの時間が問題になってきますね。

プレホスピタルレコードと言って、日本で初めて明石市の消防隊と一緒に取り組んだものですが、病院に来るまでに確認してもらいたいののが、FASTという標語です。脳卒中を疑うための「AC-T-FAST(アクト・ファスト)キャンペーン活動」を国立循環器病研究センターと一緒に進めています。顔の麻痺(Face)、腕の麻痺(Arm)、ことばの障害(Speech)の頭文字を組み合わせたものです。Tは発症時刻(Time)です。このFASTを覚えて救急受診すれば、無駄なく病院に運ぶことができます。時間が一番大事です。

4、5年前からは明石市の取組みとして、救急隊に小学校に向いてもらい脳卒中について話をしてもらっています。子どもが家に帰って家族に話をして家族ぐるみでFASTに気がつくようにしておけば、発症から救急隊を呼ぶまでの時間が短く

なります。家庭内でそういった話をしておくことが大事だと思います。

——リハビリ病床もフルに回転していますか。その後の連携はどのようにされていますか。

回復期リハビリ病床は31床しかないのですが、他のリハビリ病院に行くことができない患者さんをワンクッション置くために使用しています。もう少し脳外科のケアが必要な状態が安定していない人が急にリハビリ病院に行くと、思いがけない結果になることもありますので、ワンクッションができたことは良かったと思っています。

それ以降の施設については、サ高住を作らないかというお話があったりもしましたが、きちんとした医療をやつていこうとすると採算が取れないようでしたので見合わせています。今後病院が集約されて来て状況が変わってくれば展開していくこともあるかもしれません。今は急性期医療に集中していきたいと思っています。

## 齋藤眞賞

1948年に日本脳神経外科研究会を発足し、日本脳神経外科学会の創設者である齋藤眞先生(1889~1950)の脳神経外科学の発展に捧げた情熱を、後世の脳神経外科医に伝承することを目的として、2005年に創設。国際賞、社会賞、学術賞、地域功労賞(2009年から)、特別功労賞(2012年まで)が授与されます。大西英之理事長は、2019年、日本脳神経外科学会 第14回齋藤眞賞地域功労賞を受賞しました。